

『総合的な学習の時間』における探究を充実させる話合いの在り様

追究スタイルの異なる2つの単元学習から

○立野文州^A, 松本謙一^B, 柴山秀範^C

TATSUNO Bunsyu, MATSUMOTO Ken-ichi, SHIBAYAMA Hidenori

富山大学大学院人間発達科学研究科^A, 富山大学^B, 富山市立堀川小学校^C

【キーワード】 総合的な学習の時間, 協同的な学び, 話合い

1 目的

『総合的な学習の時間』の教育課程上の存在意義は、「探究」にある。「探究的な学習」では、一人一人が個性的な学びの様相をみせる。この一人一人の多様な学びを一層確かなものにする手立てとして、「協同的な学び」の場としての学級全体による「話合い」に注目した。

本研究では、探究的な学びを深める話合いについて、追究スタイルが異なる授業実践（集約型単元、発散型単元と名付けた）を分析し、その在り様と教師の働きを解明することを研究の目的とする。

2 方法

- (1) 追究スタイルの異なる2つの授業実践(図1, 図2)から、「協同的な学び」における子ども同士の関わり合いの過程を抽出する。
- (2) 授業カンファレンスを通して、授業記録、ノート等から、子どもの変容を捉え、「協同的な学び」の場としての話合いの在り様について考察する。
- (3) 2つの授業実践において効果的な話合いを支える教師の働きかけを明らかにする。

3 単元の概要 (図1, 図2参照)

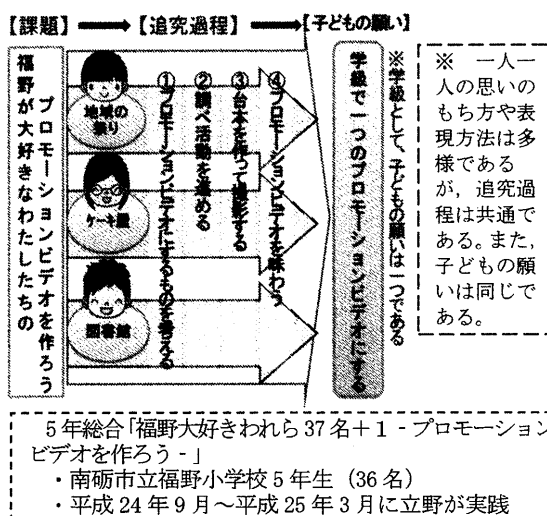


図1 集約型単元のモデル図

4 実践を通しての考察

集約型単元と発散型単元の比較を表1に示す。

表1 集約型単元と発散型単元における話合いの在り様と教師の働きかけの比較

	集約型単元	発散型単元
話合いの在り様	【中心となる教材】 探究の対象でなく、取り組む子どもが教材となる。 【話合いの順序性】…話合いは次の2段階となる。 ① 話合いの中心となる子どもの思いや価値観を理解しようとする時間 ② ①を受け、考えたことや自分の思いとつないで話す時間 【話合いの効果】 - 中心となった子どもは、仲間の発言から活動に自信をもって取り組んでいく。 - まわりの子は、中心となった子どもの思いや価値観をもとに自分の活動に立ち返っていく。	・ 全員が共通の願いのため、①の時間が短い。 ・ それぞれの願いが異なるため、①の時間が長い。
教師の働きかけ	【話合いの進め方】…話合いを次の手順に進める。 ① 中心となる子どもが何を伝えようとしているのか理解させる。 ② ①がきちんとできた段階で、まわりの子どもに思ったことを語るようにさせる。 ③ 話合いをもとに、一人一人自分の追究に立ち返らせる。 【話合いを支える前提】 - どの子どもも真剣に対象に立ち向かっている。 - みんなで話し合えるあたたかい学級づくりをする。 ・ 共通の願いを前提に話合いを進めていく。	・ 一人一人の願いが異なっていることを前提に話合いを進めていく。

5 まとめ

詳細については、当日発表する。

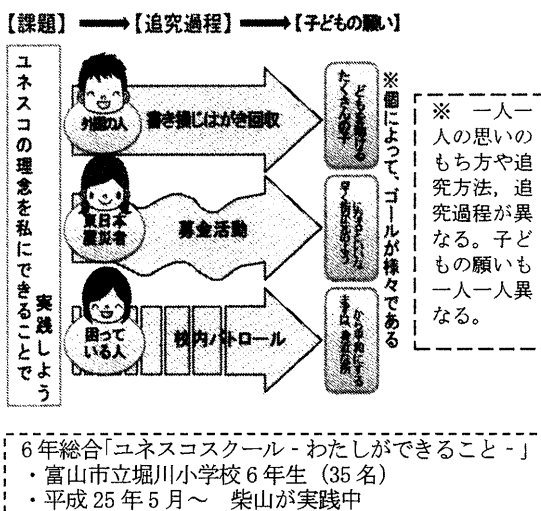


図2 発散型単元のモデル図